

## 新宿駅東口周辺の商店会協力による防災マップ

D3-06406 望月 由布季

### 1. はじめに

近年、近い将来での発生が予想されている首都型直下地震に対して、被災者をすみやかな非難・安全の確保・負傷者の迅速な対応に導く防災マップの存在は、とても重要なものと考えられる。従来の防災マップは住宅地を対象とし、住民向けのものが多いが、住民数は少なくとも、毎日莫大な人が訪れ利用する新宿駅東口周辺に対しても、一般的な住宅地の防災マップと同様に高い必要性を感じる。そのため、この地域の防災対策の充実の為の第一歩とすべく、新宿駅東口にある新宿大通商店街の防災マップの作成を今回の研究のテーマとした。

先にも述べたように、新宿駅東口周辺には住宅が少なく、建物のほとんどを商業施設が占めている。そのため、住宅地に見られるような地域住民間のつながりが薄く、利用者はもちろん、新宿駅東口周辺で働く人たちの中にも、この地域の地理に疎い人が多くいることが想定される。また、新宿駅東口周辺のもう1つの地域特性として建物の過度な密集も挙げられる。よって今回の防災マップではよりわかりやすいマップを要求されるので、防災マップの範囲を可能な限り狭くし、詳細な情報も簡潔にまとめられるようする必要があった。

そこで、今回の研究では、使用対象者を新宿東口周辺で働く人たちに、対象地域を新宿大通商店街に限定し地域住民の代わりに新宿大通商店街振興組合に加盟している事業所に協力をいただき、新宿東口周辺の地域特性にあった防災マップを作成した。

これにより、新宿東口周辺の利用者（今回は特に新宿大通商店街の利用客）の速やかな非難・安全の確保・負傷者の迅速な対応が可能となることを狙いとする。

### 2. 新宿駅大通商店街防災お役立ちマップ

今回の防災マップでは従来のものとは作成工程・表示形式・使用対象者など様々な違いがあることから、マップの名前を防災マップではなく、防災お役立ちマップとした。防災お役立ちマップの作成工程・表示形式・使用対象者は以下の通りである。

#### 2.1 作成工程

新宿大通り商店街防災お役立ちマップを作成するにあたり、以下の2つの調査を実施した。

#### (1)新宿大通商店街振興組合員向けアンケート調査

アンケート調査は、新宿大通商店街振興組合に所属する各事業所、ビルオーナーに向けて実施した。調査では質問を3つに大別し、①どのような物的資源を所有しているか、②どのような人的資源を所有しているか、③その他防災活動や意識の確認、といった項目を設けた。新宿大通商店街振興組合に加盟している100の事業所にアンケートを配布し、そのうち、回答のあった45社のアンケートを集計した。集計結果は、事業所に提出した報告書にグラフとして掲載するか、防災お役立ちマップの地図上にての掲載、または、防災お役立ちマップの最終ページに一覧表として掲載した。

#### (2)まちあるきによる点検

災害時における危険箇所と役に立つ箇所の情報を防災お役立ちマップに掲載するために、まちあるきによる情報収集を行った。まちあるきでは、災害時における危険箇所として、非難が困難になると思われる道路の狭い箇所や落下物として道路上に落ちてくるものなどの中心に点検をおこなった。一方、災害時に役に立つ箇所については、薬局やコンビニ・消火器・公衆電話などを中心に点検を行った。点検時には、マップに点検箇所の記入を行うとともに、点検箇所の撮影を行い記録に残した。

### 2. 2 表示形式

新宿大通り商店街を1から4の4つのブロックにわけ、各ブロックに1つずつ防災お役立ちマップを作成した。表示方法は1枚の大きな地図に全ての防災に関する情報を掲載するのではなく、より見易さを求めて、A4用紙5枚の両面印刷とし、各項目にわけ7つマップを掲載した。それ以外に、表紙・アンケート回答情報の一覧表・防災お役立ち情報を掲載し、全10ページとした。

### 2. 3 使用対象者

作成した防災お役立ちマップの使用者をアンケートに協力していただいた新宿大通商店街振興組合員、またはその事業所の従業者に限定することで、一般向けでは公開できない事業所の情報をマップに掲載することを可能とした。

### 2. 4 防災お役立ちマップの作成

事業所からのアンケート調査結果とまちあるきによって点検した情報に基づいて、防災お役立ちマップを作成した。基礎地図は『東京地図出版社製のミリオンマップ

10000』を採用し、インデザインの使用によってグローバルリンク市居氏が作成した。図1と2に作成したマップの一部を示す。



図1 点検マップ (Aブロック)



図2 けが人への対応 (Aブロック)

### 3. 防災お役立ちマップの機能性と実用性の確認

作成した新宿大通商店街防災お役立ちマップの実用性と機能性を計るために新宿大通商店街振興組合員に協力してもらい次のような2つ調査を行う。

またこの2つ調査の結果から防災マップの今後の課題を見つける。

#### 3.1 ヒアリングによる調査

作成した新宿大通商店街防災お役立ちマップを新宿大通商店街振興組合員に配布し、マップを見て気付いた問題点・改善点・要望などの意見を求める。防災お役立ちマップの配布方法は郵送か手渡しとし、配布後、一定の期間を置いて電話もしくは直にヒアリングの調査を行う。

#### 3.2 図上演習による調査

新宿商店街防災お役立ちマップの利用者を対象として図上演習を行う。方法は、演習参加者を同日、同時刻に一箇所に集めを一斉に行い、各事業所の機能・一日の平均利用者数・従業員数・建物の階数などから、それぞれの事業所に、より具体的な災害時の状況を想定・提案し、想定した状況下で防災お役立ちマップがどれほど機能的であるかを調査する。また、この演習では、事業所間で

の連携による対処を求め、防災お役立ちマップ使用者の防災意識の向上・事業所間のつながりが深まることも狙いとする。

### 4. 今後の課題

今回の研究では、新宿大通商店街の防災マップ作成までに終わった。

だが、商店会と協力して防災マップの作成を行ったのは今回が初めてということもあり、防災マップにはまだまだ改善の余地があると思われる。更なる改善・改良を加え、よりよい防災マップとするための研究を今後の課題とする。

また、新宿駅周辺には新宿大通商店街以外にも多くの商店街が存在する。今後の研究では、新宿区と連携をとり商店会協力による防災マップの拡大も課題とする。

図3は、次回防災マップの候補地である新宿駅周辺の商店街である。



図3 次回防災マップの候補地

それ以外に事業所の防災意識の向上という大きな課題も今回の研究で浮き彫りとなった。

新宿大通商店街のアンケートの返答率も50%をきっており、事業所の防災意識の低さが目立った。今後の活動を続けることにより、事業所に防災マップ作成の重要性を理解していただき、防災マップ作成に協力していただける事業所が少しでも増えることを願う。

### 参考文献

1)久田嘉章、村上正浩、市居嗣之：「新宿大通商店街防災お役立ちマップ」作成等業務報告書